地域の「この先10年の話」しませんか

第6次長期総合計画に係る地区別懇談会開催

町では、平成31～41年度を計画期間とする第6次長期総合計画の策定作業を進めています。

長期総合計画は、この先10年のまちの将来像やまちづくりの方向性を示すものです。今回、長期総合計画の策定に関し、住民の皆さんの意向を反映するため「地区別懇談会」を開催しました。

平成29年11月8日から14日まで、町内5か所において地区別の懇談テーマを設けながら実施しました。夜間や休日にも関わらず多くの皆さんに足を運んでいただき、計画に対する貴重なご意見をいただきました。その地区別懇談会の概要をお知らせします。

11月8日㈬夜間 南小アッセンブリホール
参加者 43人

懇談テーマ①
白石川右岸河川敷整備について

説明
現在、金ケ瀬さくら大橋から大河原大橋の白石川右岸河川敷の雑木除去が宮城県により行われており、河川敷の整地や川のなかの中洲撤去も要望しています。今後、眺望もよくなり、スポーツ、観光、憩いの広場など活用に関して可能性が広がりますので、町の魅力ある資源（顔）となることを目指していきます。

質問　河川敷地にサイクリングロードを作る話も出たが、非常にいい話だと思う。ただ補助金が出るからというのではなく、10～20年先を見越して行ってほしい。

回答　補助金単発の事業にならないように長期的スパンで見ていきます。河川敷周辺を広域的にも成功事例にしていきたい。にぎわい創出の拠点は大河原だという気持ちで進めていきます。

質問　にぎわいの一つとして、桜が1週間で終わるのであれば、遅く咲く桜（八重桜）等を植樹してはどうか。それにより桜まつりの期間も延びるし、満開の桜を逃したかたにも楽しんでいただけると思う。

回答　県南でインバウンドの観光客対応をしており、広域で見ると約1か月間はどこかで桜が見られるというPRをしています。いろいろな種類の桜があって、いろいろ楽しめて、時期も広がるというのは確かにそのとおりで検討していきたい。

懇談テーマ②
将来的な公共施設のあり方について

説明
今後、公共施設の多くは老朽化して更新時期に入っていきますが、子どもの数が減ったときの学校施設、高齢者が増えていくなかでの集会所など、建替えでよいのか統合して一緒に使うのがよいか検討が必要。また学校施設が空いてくれば地域への開放も考えられます。

質問　アッセンブリホールなどを地域に開放してほしい。自由に使えることで、顔見知りになり、防犯にもつながる。子どもたちを地域全体で育てる取り組み、高齢者が身近に通えて元気に暮らせるところにもつなげられる。

回答　法律が変わり、学校だけが子ども達を育てるのではなく地域の協力を得て育てる「コミュニティスクール」が今後進められます。アッセンブリホールについても地域に開放する方向で検討していきます。

質問　集会所は使いにくい点があります。空き状況がわからない、どこで予約か、料金はいくらか、減免で使える範囲など。予約がネットでできるようになると良い。

回答　予約は指定している管理人になりますが、ネットでの予約は難しいです。もう少し簡単に予約できる仕組みを検討します。町民であればどこの集会所でも使えますので、使用拡大に関してPRをしていきます。

11月11日㈯午前 金ケ瀬公民館
参加者 17人

懇談テーマ①
将来的な公共施設のあり方について

説明
現在、金ケ瀬地区の0歳児・1歳児ともに18人だけであり、今後1クラス18人も想定されます。金ケ瀬小学校の老朽化も進んでおり、大規模改修、学校の編成替えなど方針を示す時期が来ます。また、金ケ瀬公民館の運営に関し地域の公民館としての自主運営も考えられます。

質問　金ケ瀬学区を増やすような学区見直しの可能性はあるのか。

回答　学区割については様々な地区から意見を聞いていますが、学区見直しに関わる地区の皆さんの考えも踏まえて検討していきます。

質問　学区外の学校への入学は検討したのか。小規模校に行きたいという要望を受け入れられる制度にしてはどうか。

回答　指定以外の学校に変更する要件として、両親が働いており祖父母が迎えに行くしかないなど特殊な理由では認めていますが、希望して小規模校に入りたいということを認める制度とはなっておりません。

質問　小中一貫校もありえるのではないか。

回答　子どもの数、施設の耐久度など10年先を見て議論していきたいと思います。

懇談テーマ②
農業を中心とした産業振興について

説明
農業経営者の高齢化、後継者不足、加えて耕作放棄地の増やイノシシなどの被害、生産物の特産化や6次産業化も進んでいない状況があり、今後の農業の先行きが不安になっています。

質問　平成30年度から減反廃止。その後の国の支援策は認定農家は対象のようだが、小規模農家は対象外、どうなってしまうのか。

回答　農業者の高齢化、後継者不足で農業の継続が危うい状況。農地を荒廃させないために、小規模農家を切り捨てるのではなく、農業の意欲のある人に農地を集めて水田を残していく施策を進めています。

質問　耕作放棄地はなくならない。どうしていくか、今後の10年間のビジョンに入れてほしい。

回答　遊休農地というのは一番条件の悪いところから切り捨て、自分が作りやすいところは残すというなかで増えています。条件の良い田んぼを作る方向で、ほ場整備を計画に盛り込みます。

質問　金ケ瀬地区で今進めている基盤整備の事業は7人しか関わっていない。町全体で団体を作って進めたらどうかと提案している。大河原に特売所を作る計画を復活して仙南の拠点を作ってほしい。作る意欲、売る場所、コミュニティの場となり地域の活性化になる。

回答　ご提案として受け取らせていただきます。

質問　農産物の加工、販売の件で、町で計画はあるのか。加工場の補助とか。

回答　6次産業化に対して、小さなことからでも取り組んで実績につながるような支援を考えていきます。何を作りたいか、売りたいのかを議論したい。食品・安全・雇用の問題もあり、6次産業化は企業にお任せしたいと考えています。

11月11日㈯午後 世代交流いきいきプラザ
参加者 11人

懇談テーマ①
一目千本桜の保護と活用について

説明
町のシンボルである「一目千本桜」を柴田町と連携しブランド化を進めています。しかし、樹齢100年近いものもあり、老木化していることから、寿命の延伸として樹木医の診断、剪定作業、害虫駆除、追肥、テングス病枝の除去など保護に重点を置いて進めます。

質問　桜が移植の時期を迎えて、移植となると数億かかる。後世に借金を残すことになると危惧している。